

第 14 期 第 4 回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事録

【日 時】	令和 7 年(2025 年)12 月 1 日(月)13 時 00 分から 13 時 45 分まで
【場 所】	生活情報センター くらしかん 3 階 体験学習室
【出席委員】	小島委員 花嶋委員 石村委員 太田委員 眞先委員 三谷委員 下村委員 高島委員 北山委員 榊原委員 吉田委員 和佐委員 村田委員 竹之内委員 (15 名中 14 名出席：有効に成立) ____ は、WEB 参加
【傍 聴 者】	0 名
【事 務 局】	藤家、片羽、小林、永富、吉村、小坂、小川、三浦、小田、中村、大井
【配 付 資 料】	・第 14 期第 4 回豊中市廃棄物減量等推進審議会（WEB 会議）議事次第 ・第 14 期第 4 回豊中市廃棄物減量等推進審議会タイムテーブル ・第 14 期廃棄物減量等推進審議会委員名簿 ・資料 1 令和 6 年度事業等報告書 確定版

●開会宣言

審議会は情報公開条例に基づき、公開の対象となる。

委員 15 名の内、14 名が出席のため過半数に達しており、審議会規則第 6 条により本日の会議は有効に成立している。

1. 第 4 次豊中市ごみ減量計画の進行管理について

○会長

それでは、第 4 次豊中市ごみ減量計画の進行管理について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

＜資料 1 に沿って説明＞

○会長

説明のあった内容について、質問またはご意見ありましたらご発言をお願いします。

お考えいただいている間、私のほうから質問で、9 ページ、モニター指標の番号 1 について、全公立の小学校・義務教育学校等に環境学習を実施した件数ということで、公立の小学校・義務教育学校の全校が 39 件とあり、その下が令和 5 年度の実績が公立小学校実施件数 38 件となっているが、表記を公立小学校・義務教育学校全校実施件数と上下で表記を合わせたほうがわかりやすいので見直していただきたい。

また、17 ページの主な市民・事業者意見について、アンケートは市民の皆さんからお声を頂戴しており、その時点でのお声ということになるので、WEB アンケートなのか紙アンケートなのか等どのような形でアンケートをしたのかというのは記録として大事なのもう少し情報を追記したほうが良いのではないかと。

○事務局

モニター指標の表記について目標数値と実施件数の表記をわかりやすいように修正する。
アンケートについても追記を検討する。

○委員

アンケートについて、910 人というたくさんの方が回答してくださったと思ってびっくりした。去年は何人から回答があったのか。

○事務局

前回、2024 年度は今年と同様、9 月 12 日～9 月 30 日の期間でマチカネポイントアプリや、市のホームページで周知し、豊中市電子申込システムによる WEB アンケートを行い、619 件の回答をいただいた。
(2023 年度は 121 件で) 昨年もその前年よりも多く回答をいただいたが、今年はそれを上回る回答をいただいた。

○委員

「市の考え方」の中で、今後、情報発信をしていくとの記載があるが、情報発信は今後、今まで発信しているところから、場所を増やそうと思っているのか。また、今情報発信をしているところはどこなのか教えてほしい。

○事務局

現在、市のホームページ、市が発行している広報物、また、YouTube を活用した動画で情報発信をしている。今後については、どういった媒体がいいのかというも踏まえて、検討していきたいと考えている。

○委員

6 ページの「市の考え方」の中で、ペットボトルの水平リサイクルと、廃食油の SAF 化など、資源循環に向けた取組みを推進すると記載があるが、結構（回収場所などが）限られているという話を聞くので、最近、家で天ぷら等をあまりしない方もいらっしゃるかと思うが、今後増やしていき、取組みがもっと広がっていくと良いと思う。

また、8 ページ、「主な市民意見」の中で、「少量パック」とあるが、「パック」ではないかと思う。

○事務局

「パック」の表記については再度確認して、修正していく。
廃食油の回収については、増やして欲しいという市民の声をいただいている。どのような形で増やしていくのかはまだ検討中であるが、市内に広げていきたいと考えている。

○委員

11 月 21 日～22 日に行われた「とよなか市民環境展」でも廃食油の回収をするのかと思った。イベントを通して広がっていくことが出来るのではないかと。色々なやり方で実施すると良いと思う。

○事務局

今回のとよなか市民環境展で、金曜日と土曜日の 2 日間、イベント開催中に廃食油の回収はさせていただいている。ただ集まった量については 9 リットルとなっており、少量であった。

○委員

啓発や周知に関する媒体について、スマートフォンアプリによるデジタルサービスが、一番効果があると思われる。例えば 10 月に、「とよなかアプリ」というアプリで、私もインストールしてみたが、高齢者向けの内容で、WEB サービスが中心となっている。広報とよなかのバックナンバーを、タップするだけでそのサイトにリンクするようになっている。こういった媒体が豊中で拡充している。廃棄物減量に関する情報や、アンケート、豊中エコショップ、フードドライブとよなか環境 TV など環境に関する取組みを知らない人がいると思うので、アプリを利用することで伸びしろがあると思う。

また、マイナンバー使ったクロス ID というアプリの登録も進んでいる。この中では未就学児等子育て世代に向けた情報が多く、こういうところも例えば、10 月に乾電池の回収ボックスが 9 か所増えているが、そういう情報をアプリで発信していくと良いと思う。

○事務局

豊中市から発信している SNS 等広報媒体について今後も活用を広めていきたいと考えている。
(アプリ等を管理している) 他部局との調整も図っていく。

○委員

13 ページ、モニター指標の (4) 廃棄物適正処理の推進の中の 3) 安定した中間処理施設等の運用の番号 30 について、焼却処理量が令和 5 年度の実績が 95,569 トン、令和 6 年度が 93,084 トンということで削減されているが、その下の番号 31「最終処分量」について、ごみ減量による最終処分場の延命化を図る、ということで、これは最終処分場への持ち込み量のことと理解しているが、令和 5 年度が 12,067 トンに対し、令和 6 年度は 12,485 トンという事で 418 トンほど増加している。因みに、令和 4 年度実績では、焼却処理量が 98,338 トン、令和 5 年度が 95,569 トンということで約 3000 トン減少、排出された最終処分量も、13,032 トンから 12,067 トンと、965 トン減少している。

令和 6 年度最終処分量が増加してしまった要因がどこにあるのか。また、対応策を考えているか。

○事務局

ご認識のとおり、最終処分量については、最終処分場に運搬していく焼却灰と、不燃ごみ等の埋め立てするごみの量となっている。こちらについては、年度を跨いで運搬することがあるので年度によってばらつきが出る。

数値の増減の対応策としては、どこまでできるかはクリーンランドにも伝えていくが、現在のところは、こういった状況で最終処分場に運搬している。

○委員

年度を跨ぐ集計上の問題だというのがあれば問題ないが、埋め立て処分場を延命させるというのが大前提で、せっかく「発生抑制してごみを減らしましょう」と、環境学習で子どもたちに一生懸命伝えているのに、処分量が

増えていると矛盾してくるので、聞きたかった内容であった。

○委員

8 ページの市の考え方に掲載している「3010 運動」について詳しく教えてもらいたい。

○事務局

「3010 運動」については、宴会時の開始後 30 分間は自席で料理をしっかり食べ、終了 10 分前には再び自席に戻って、出されたものを全て食べきってお開きにしてください、という宴会時の食べ残しを減らすための取り組みのことである。

○会長

この「3010 運動」は意外と効果があり、以前参加したある宴会でも「3010 運動」の取り組みを実施したところ、本当に随分食品ロスが減ったということであった。声をかけるという簡単なことで、効果があるのかと思っていたが、意外と効果があるので、行政のほうでも音頭をとってやっていくといいと思う。

○委員

13 ページの（４）廃棄物の適正処理の推進、１）時代の要請に応じた分別収集体制の推進、番号 28「新規介護事業者への周知件数」について、「高齢者等のごみ出し困難者への支援として、特別収集事業を周知し、ごみの分別排出を図る」ということだが、目標数値が新規介護全事業者となっており、実績が、令和 5 年度も令和 6 年度も実績なしとなっている。このまま令和 7 年度も実績なしとなるのか。

高齢者でごみ出しをできない人に対して、介護事業者の方が支援をするというものであるが、その事業者を探さなければならない。また、事業者から手を挙げることは無いかと思われるし、周知されているかもわからない。何か対策を立てているのか。

○事務局

今のところ、市内の介護事業者に対して、一定の周知はできており、新規での実績はなしとなっている。また、新たに多くの介護事業者ができた場合は、新たに周知する事になる。

○委員

このモニター指標に掲載しているのは令和 5 年度と令和 6 年度だが、いつからやっている仕組みなのか。たまたまこの 2 年度に実績がないということなのか。

○事務局

平成 26 年度から取り組みを行っている。これまでには実績がある。

○会長

既にもう周知されていて、新たな周知というものがない、という理解で良いか。

○事務局

ご理解のとおりである。

○委員

先程、どういったところで情報発信しているのかについて質問をしたが、モニター指標の中にも YouTube（とよなか環境 TV）での情報発信の目標数値で年 1 回というものが掲載されている。YouTube のチャンネルを見ると、去年はわりと見られたのかなと思うが、今年に入ってから回数が少ないと見受けられる。YouTube でこんな事やっているよということ自体を周知するような活動をしているのか。

○事務局

「とよなか環境 TV」を周知する方法としては、イベントなどでの動画の上映や、チラシの配布をしている。今回のとよなか市民環境展でも「とよなか環境 TV」の動画の上映を行った。今後も、そういった周知をしていきたいと考えている。

○委員

YouTube を活用していくならば、ショート動画で何かできないか。今の若い世代の人は、時間の長い動画は見ないと思う。ショート動画で発信できるものがあれば良いのではないか。

○事務局

今年度、市の事業で外部の方から専門的なご意見をもらう副業人材支援という事業があり、その中で、とよなか環境 TV の動画配信に関するアドバイスをもらうようになっている。このようなものを活用して、どういったものが視聴してもらいやすくなるのかを検討し、取り入れていきたいと考えている。ショート動画についても今後作成できればと考えている。

○会長

活発なご意見をいただきありがとうございます。事業等報告書確定版について、本審議会の意見を反映したものを事務局にて作成されたい。最終の確認については会長一任で確定させていただくということでよろしいか。

○委員

異議なし。

2.その他

○事務局

本心議会を持って、第 14 期の審議会は終了となる。

委員の皆さまには、本市の廃棄物行政にご理解、お力添えを賜り感謝申し上げます。豊中市環境部長 藤家よりご挨拶をさせていただきます。

○部長

委員の皆さま、第 14 期ということで、2 年間おつき合いいただき感謝申し上げます。

環境政策について、世界的潮流の中で、一方では市民生活や営業活動の中で、何をどうやっていくか、環境対策の技術的な革新や、新しい科学的な知見等、日進月歩に進んでいると認識している。前の考え方や、やり方とは違う新しいやり方、或いは別の方法が効果的である、など色々な情報が入ってくる。その中で一番良い方法を探っていく必要があり、我々も知恵を絞りながら情報を集めながら検討していく。

また、市は一般廃棄物処理基本計画、ごみ減量計画を策定しており、計画を来年、再来年度に改定をしていくというタイミングになっている。まさにそういった潮流の中で、次の環境政策のステップに向かっていく必要がある。それには、市民生活、市民活動、事業活動に携わる皆さまの視点、学識経験者の先生方には、内外の新しい知見をいただきながら、来期以降も議論を進めていき、また、計画の策定をしていこうと考えている。皆さま方とともに、積み重ねてきた議論を糧に、さらにステップアップをしていきたいと考えている。

今後も色々な機会があるかと思うので、ご支援とご協力をよろしくお願いする。改めて 2 年間ご尽力に感謝申し上げます。

○事務局

来期 15 期の審議会委員の選任につきましては、関係団体、事業者様からの推薦に関しまして、後日、ご相談させていただきたい。

公募の市民委員の皆さまは今年度末で任期満了になる。また、本日 12 月 1 日より来期 15 期の市民委員の募集が始まっている。募集期間は 12 月 1 日～2026 年 1 月 22 日（木）までとなっている。

○会長

本日の議事は以上とし、「第 14 期第 4 回豊中市廃棄物減量等推進審議会」を閉会する。

3.閉会

以上